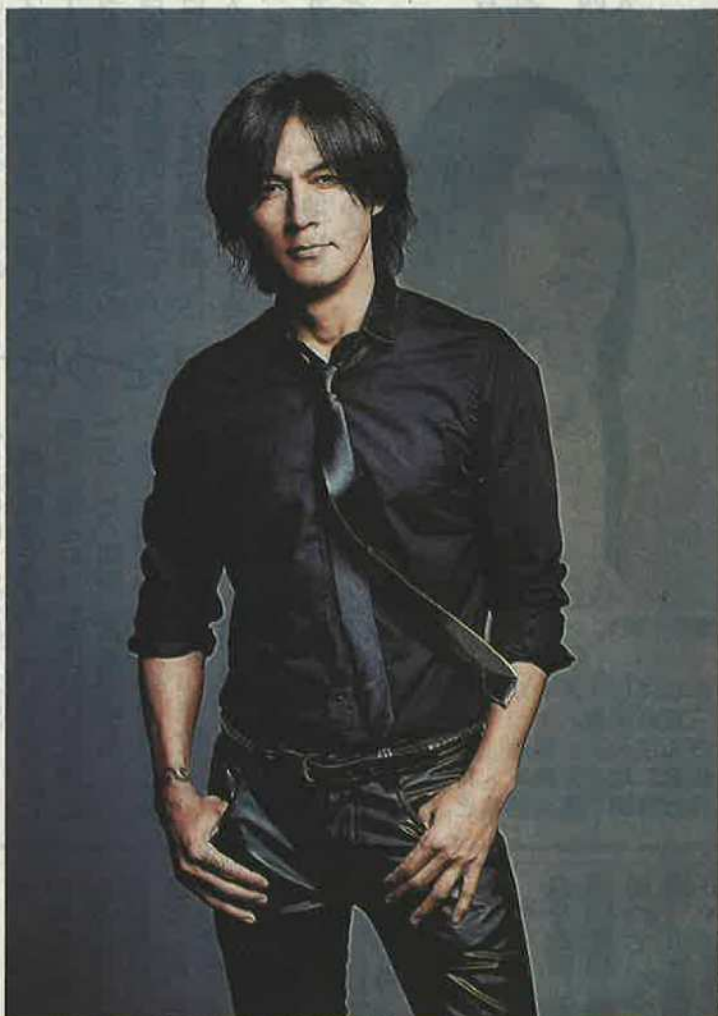


# 7.22 B'z凱旋ライブ @ 津山文化センター



## 稲葉浩志さんインタビュー詳細

人気ロックバンド「B'z」が22日、ボーカルの稲葉浩志さん(52)の地元津山市で28年ぶりにライブを行います。ツアーで全国各地を回る中、故郷への思いが募っていったという稲葉さん。凱旋ライブへの意気込みや津山の思い出について、稲葉さんの母校・津山高校の後輩、国米あなんだ記者(27)が聞きました。先月20日に東京都内で行ったインタビューの詳細を掲載します。

ライブの開催が4月に公式ホームページで発表され、地元では驚きの声が上がりました。

「去年、ライブの開催地を決めるスタッフから、津山市で開催すると聞かされました。その時は僕も『おおーっ』てなりましたね。発表直前の4月に地元で帰る機会があって、兄や友人から『ここでしてくれりゃあのお』って言われたけど、貝のように口を閉ざしていた。発表されて『お前、知ってたんか』と連絡が来るかなと思ったら何もなくて。それはそれで不気味なんですけどね」

私は高校生の時、「津山市とB'zが過去にけんかをしたから、地元でのライブが実現しない」といったうわさを耳にしたこともあります。

「そんなうわさがあるんです」



B'zの稲葉浩志さん(右)と松本孝弘さん

## 地元開催に僕も『おおーっ』

若い時と比べて地元への思いは変化しましたか。

「うーん……、変わってきたと思います。個人差はあるでしょうが、若い時は地元に戻らなきゃとは思わなかった。けど、最近はずいぶん津山市のような小さな街で何ができるんだろう、と考えるようになった。離島や小さな街のホールで定期的にライブを開催しています。訪れる街のほとんどでは郊外に大型店があって、商店街の人通りは少ない。その様子を見ると地元を思い出します」

「僕の兄はずっと津山市で暮らしています。地元の同年代の人たちと、常に地元の活性化について考えている。夜な夜な酒を飲んだりしながら。彼らに比べると自分

ね。今までやらなかった理由……、やはり地元という意識はいやが応でもついてくるので……。なんだろ、あまり突出するのをスタッフが避けていたんじゃないでしょうか。僕が嫌がるのは分かっていたらどうしよう……。ただ、今回はB'zとして約2年ぶりの全国ツアーで、来年にはデビュー30年。ツアーの中にお互いの地元が入っているのはトピックス的にはね、ちょっと長い時期だと思えました」

津山は盛り上がりそうです。

「どうなるのか分らないですね、全然。まあ、客席に知った顔ばかりあるのは不思議ですね。でも、津山に行ったことがない人もたくさん行くでしょうから。津山にとってそれはいいんじゃないでしょうか」

## 高校時代 人前で歌うのはすごく恥ずかしかった

大学卒業後、B'zとしてデビューしました。大学生の時からプロを目指していましたか。

「僕は高校を出て、歌手になってスターになるっていう気持ちはない。どちらかという消極的に田舎を捨てた。だからなかなかみんなが望むようなストーリーじゃないんです。割と流されて生きてきた。でもやっぱりバンド活動が楽しくて続けてきた。本当に好きだったから長続きしたんでしょう」

「ただ文化祭当日、僕は声が出なくてぼろぼろ。本番前、一生懸命リハーサルをすぎたのが原因です。それまで歌いすぎて声が出ないなんて経験したことがなかったから、声が出なくなった理由も分からなかった。お客さんがどれくらいいたとか、そういうことほとんど覚えてないですね。練習やっている中で、多少、自信という自分たちがいんじゃないかって思っていたんで、声が出なかったということ、それしか覚えていない。悔しかったですね。『本当は俺はもっとできるんだ』っていうのを言いたかったけどさういうわけにもいかないんで。この経験が音楽を続けるきっかけになった」

はなんか、地元に対して楽をしていると感じます。久しぶりに帰って、何日か楽しく過ごしたら東京に戻る。(兄とは)地元に対しての責任感が違います」

小規模ホールでのライブで、地方を活性化させたいという意識があるんですか。

「そこまで深くは考えてはないです。ただ、普段はその地域に縁がない人が、ライブをきっかけに訪れることもある。自分が地方の出身というもあるかもしれないけど、人が出たり入ったりするのは、わくわくする」

音楽の道に進むきっかけとなった出会いが津山であったと聞きました。

「僕が通った津山高校に、ギターがめちゃくちゃうまい頼経英博くん(いまは美作市立英田中学の教頭)という同級生がいました。ある時、彼が学校の教室でギターを弾いているのを聴き、『カッコいい！』と衝撃が走りました。高い声が出るからと頼経くんに誘われ歌うようになった。人前で歌うのはすごく恥ずかしかった。だけど、彼のギター演奏をみんなに聴かせたいと高校3年生の9月、文化祭でバンド演奏をすることに。当時はお金を使ってスタジオを借りるといふことはしないで、練習場所は頼経くんの家。家と学校と頼経くんの家を行き来する生活でした」

「ただ文化祭当日、僕は声が出なくてぼろぼろ。本番前、一生懸命リハーサルをすぎたのが原因です。それまで歌いすぎて声が出ないなんて経験したことがなかったから、声が出なくなった理由も分からなかった。お客さんがどれくらいいたとか、そういうことほとんど覚えてないですね。練習やっている中で、多少、自信という自分たちがいんじゃないかって思っていたんで、声が出なかったということ、それしか覚えていない。悔しかったですね。『本当は俺はもっとできるんだ』っていうのを言いたかったけどさういうわけにもいかないんで。この経験が音楽を続けるきっかけになった」

## 原体験は津山にある。蒸し暑い夏の日に聴いたエアロスミスを思い出す

津山での日々で今につながっていることはありますか。

「自分の原体験は津山にあります。過去にB'zとしてロックバンドのエアロスミスと共演しました。僕にとってエアロスミスと言えば、津山にいた時の夏休み、市営プールから家に帰った後に聴いた当時のアルバムを思い出します。蒸し暑い夏の日です。音楽の原体験は津山での音、見ていた風景です。歌詞を書く時にも思春期に見たものや育った場所が影響しています」

1989年の美作女子大学・同短期大学部(現美作大学)でのライブのことは覚えてますか。

「あの時は、美作女子大と名古屋市の大学の学園祭で演奏しました。学園祭でのライブはあれが最初で最後。なんで津山市だったのか、理由は覚えていません。ライブが終わった日の夜に、同級生と松本さんと集まってご飯を食べた。『松本さんを連れてきてくれた』とありがたがられましたね」

ライブは津山文化センターであります。市民にとって親しみ深い場所です。私も小学生のころに劇などを見に何度も行きました。

「僕も子どもの時、絵の展示会や映画鑑賞など、ことあるごとに行きました。学校の行事で『長くつ下のピピ』の映画を見た思い出もある。高校がセンターの近くで、学生の時も毎日のように目にしてきた。当時は見向きもしなかったんですが、実は個性的なモダン建築でカッコいい。鶴山公園(津山城跡)の石垣もすごい。4月に津山に帰省した時、久しぶりに鶴山公園の桜を見ました。本当にきれいで圧倒されました。ライブを機に初めて津山を訪れた人にも行ってみたい欲しい」

津山高校の旧校舎(旧津山中学校本館)は国指定重要文化財です。私が高校生の時は稲葉さんのファンが旧校舎が見える正門前でよく記念撮影をされていました。

「僕が学生の時は授業などで旧校舎を利用していました。木造で趣がある。こちらも行ってみたいですね」

ライブ当日はセンター周辺に飲食ブースなどもできるそうです。

「間違いなくホルモンうどんのお店はあるでしょうね。街中にも、かも鍋やおでんのおいしいお店がありますよ。観光名所に行かなくてもいいんですけどね。商店街を歩いて、たまたま入った店で話した人との出会いをきっかけに、もう一度その街に行こうかなと思えるような滞在してもらいたい」